

が ん ば

報 友 会 育 小 三 島
行 部 報 發 廣

〔第58号〕



初書に楽しんだ
手づくりしたこあげ大会

卒業生のの

ご両親へ

学校長 江島九香



六年間の蜚雪の努力が実り三小の学窓を卒業するお子達のご両親へ心よりお祝詞を申し上げます。

お子達の成長と共に何かと親のご苦労も倍加するものでしょう。親の慈悲は有終の美を尊びます。すべて途中には叱ることもあり罰することもありましょうが、結局はお子達を育てあげることにあります。

子育ての第一は、親が子どものよき手本になることです。福沢諭吉も「子どもの躰は言葉によるべからず、目によらしむべし」と論じています。

中学生にもなれば自から感じとらせる方法つまり感化です。生活全般にわたって親は鏡です。第二は、子どもへの心づかいを忘れないことです。私たち大人もそうですが、出勤する時など、玄関先で一寸やさしくされると、その日は気分が何となくさわやかです。きげんとりやあまやかしではなく、親の子に対する愛情を一寸したことで表現してやるいわば心の交流です。肩に手をおいて一こと。ほっぺを軽くつつねって笑顔を見せるとか。

体を通して諭すスキンシップです。必ず子心を暖かくゆさぶるものです。第三には、大人も子どもにも長短があり、未熟な点もあります。人間は自分の短所ばかりつつかれると、全くだやになりやる氣を失います。長所を引き出しつつ短所を反省させていくコツが是非必要です。それが成功すれば大きな自信につながります。勉強でも、スポーツでも、先づ本人が自信をもつことが大切です。何かにつけて子どもの過去の事柄をもち出しておさえつけることをしないで、子どもの立場や考えをよく理解してやり、よい話し相手になれる親でありたいものです。親の欲目から自分本位な考えを押し通すことは決してよい結果は生まれません。最後によい友を得ることをおすすすめします。心を許せる友達がいることはいろいろな意味で大切です。先生にいえぬ、親にも話せないことを解決するには心友がどうにかお子達のお幸せの為に、お健やかで頑張ってください。

いあいさつ

校長 江島 九香

去る一月十三日夜の本校木造二階校舎の火災に際しましては大変ご心配をおかけしました上に、有形無形に亘ってご援助を頂き、心より感謝申し上げます。

優れた消火活動により被害も最小限度に食い止めて頂きましたので、教室もどうにか不足することもなく、平常通りの授業を続けることが出来て何よりでした。

消失した教材・備品等につきましても、市教育委員会の特別のおはからいで、早速に必要なものから購入して頂き学習に供してあります。又市より焼失学級の児童一人一人に過分のお見舞金を頂き、本

当に有難いことでございました。その上本校の育友会からもお見舞にりっぱなものを頂きましたし、市内の各小中学校児童生徒の皆さんからは三小のお友達が「元気で頑張るように」と、代表の人が学級まで来て、「お見舞いを頂いたことも忘れられない感激でございました。待望の新校舎建設についても現在市ご当局で設計準備中でありまして、本年中には三階のコンクリート校舎が目見えするものと期待いたしております。

このような各方面からの善意あるお励ましと、ご支援に対して心より感謝申し上げますと共に、これに答えるべく一層心をひきしめて三小教育の実をあげるべく精進する覚悟を新たに次第であります。

今後ともよろしくご協力の程お願い申し上げます。

あたたかい心に

感謝 謝

前山 四郎

一月十三日(日)夜半、三小火災の報に接し、かけつけました時はすでに、木造二階校舎は完全に炎につつまれておりました。消防の方々の懸命の努力で体育館の消失はまぬがれました。危険校舎として、一時は雨もりだけでなく、

どろが降るとして、育友会としましては、同窓会・町内連絡協議会と共に校舎改築促進委員会を作り、当局に陳情をしてまいりましたやさきの火災でした。

校舎内にありました教具・子供さん達の学用品の数々が焼失しました事は残気にたえませんが、火災の翌朝はだれからさそいあうでもないのに、多数の方々が集まられて、授業の正常化の為に先生方と共に努力して下さいましてありがとうございます。

さまで一時間たりともやすむ事なく、授業が行なわれまして喜びたいと思えます。

又、各学校・各育友会・同窓会を始め多くの方々からお見舞い・はげましのお言葉をいただきました。三年一組と二年生の全クラスが木造校舎の為、焼失致しました。火災教室の子供さん達の為にお見舞いをつのりまして所、多額の金額を集めていただき、学校そなえつけの学用品を育友会の皆様

からの「お見舞い」としてプレゼント致しました。

今は焼跡もきれいにかたずき、白い地肌が露出してありますが、数千人の人達が学んだ校舎は老朽化してはおりませんが、とりこわすのではなく火災で一瞬のうちに失った事は残気にたえませんが、火災後、教育委員会の方々ははじめ、当局の心あたたまる力添えにより立派な三階建ての鉄筋コンクリートの校舎が出来ると思っています。

三小の古い伝統のある場所に

三階建ての校舎が新しいうつわとして出来ましたとき、三小の新しい歴史は始まるのではないのでしょうか。

火災後、子供さんの授業に支障をきたさなかつたのは、学校と育友会の協力の成果だったと思えます。

本当にありがとうございます。



保健室だより

保健室は、こんなに利用されています。
学校でのけがや病気の事態
(S54年4月 ~ 55年2月末日)

傷病名	学 年	全 校	学校安全会数の件
擦 過	傷	598	
切 傷	・ 刺 傷	298	9
打 撲	傷	165	4
捻 挫	・ 突 指	84	10
脱	白	1	1
骨	折	11	11
火 (やけど)	傷	8	
鼻 出	血	21	
歯 折	痛	1	1
腹 痛	・ か ぜ	177	
頭 痛	血	499	
貧 血	他	9	
そ の 他		43	
保健室来室者の合計		1,915	36

○学校安全会とは、学校の管理下でけがをして病院に送られた場合、治療費を学校が負担する制度です。

専門部年間反省

反省して気がついた事

教養部 広田 誠 一

研修旅行、巡回文庫、生活部と合同の町内巡回映画会及び懇談会、講演会と四つの事柄を、この一年間、会長始め育友会の皆様又校長先生始め先生方のご協力が無事過ぎませて頂きありがとうございます。

一年間を省みて、私の気づいた事を述べたいと思います。まず、授業参観日が年間十程度あるときいております。いつも参観後学級懇談という方法がとられているようですが、その内二〜三回程度、時間を延長して、校長先生始め先生方にお願ひ致し、体育館で一時間程お話をさせて頂くか又、先生方をかこんで対談的なものを行なうては如何でしょうか。

の為にというか、親中心に物事を考え子供の意見をきかない事があるのではないでしょう。もっと真剣に子供を愛し、はだかになって話し合える心と、自分の子供として見つめるよりも、子供を少し距離をはなして、例えば、おとなりの子供だと思つて考える必要があるように思われます。又その時になって、責任のなすり合い、先生が悪い、又友達が悪いと考えない親の行動が、子供をすくう心であるかもしれません。「他人の子もしかも運動」も実施されております。子供のよい行ないはほめ悪い行ないは、きびしくしかろうではないでしょうか。

参観日に

お父さん

学級部長 古井 久輝

さて本年度も、学級育友会出席の向上を目標に、月一度

の授業参観と先生を囲んでの話し合いを主に、「何んでも話し合える、なごやかな学級会」となる事を努力してきました。その一つとして初めて自分の子供さんが一年生になられるお父さんには特に興味があるのではないかと思ひ一年生だけの父親参観日を設けて見ましたが、やはりお母さんの出席が圧倒的でした。各クラスに何名かのお父さんの姿が見えました。お父さん、何んとか都合をつけて我が子の勉強する姿をご覧になりませんか。次の会からは何の抵抗もなく出席できるのでは無いでしょうか。「顔は知っているが名前がどうも」という方がたくさんいらっしゃいます。懇談の時の名札も出来ています。顔と名前が一致しました。次の参観日には、是非さそい合つて出席してほしいものです。自分の子供の生活は三分の一、友達同志で三分の一、だそうです。学校での三分の一を月一度の参観の場でのぞいて見ませんか。先生、御父母の方とお話しになって見ませんか。案外親の知らない、わからない良い所悪い所が発見出来るかと思ひます。高学年になる程出席人数は減少します。高学年になる程、親の言う事も聞かなくなり、

しつてもむずかしく成ります。六年生が一学期、五年生が三学期に授業参観の後に、先生も混えた親子懇談を催して見ました。親子共色々と注文、不満と色々話しはつなないようでした。家庭ではわからない一面を見たようでした。そういう意味での親子懇談は有意義であつたと思ひます。今後このような機会を見つけて大いに話し合つてみては如何でしょうか。自分の子供を思うならば、もう一度原点にかえて考えて見ようではありませんか。定期的に行われる学級懇談、毎回でなくても御出席になつて話し合つて見ましよう。新年度からは、又心新たに学級育友会へ、多数の御出席をお願い致します。

成功だった 自転車点検

交通部長 岡 本 正 秀

本年度交通部のメイン行事は、やはり自転車の一点検だつたと思ひます。生憎の雨にたたられて延期々々となり一斉に行うことが出来ず各校、マチマチとなりましたが、各

校共御父兄を始め多くの関係者の御協力で第一回目としては、マア、成功だつたと思ひます。

又通学路調査でかなりの横断旗の不足が判明し新規に二十五本購入しておりますので新部長さんより配布されると思ひます。

交通部としては、三月中旬の市内小中学校駅伝マラソンに協力することになっていきますので目下片山体育部長、永門生活部長三人で実施に向けての準備中です。

私個人も三月で三小とお別れです。今年各行事又各研修に参加させていただき大いに勉強させていただきました。本当に長い間お世話になりました。

来年度の あさがお作りに!

下葉が黄色くなるのは冷水のため。くみ置きした水をかけると良いのです。私がかもつてる小さな「チエ」をひとつ。

(三小P)

一年を

ふりかえって

環境部長

高原 寿一

過日校舎の火災に際しましては、多くの方々により御参集頂き、「教室作りや机・椅子の修理、配置等、御協力を賜り有難度うございました。」お蔭を持ちまして、一日も休む事無く平常通り授業が行われまし

した。厚く御礼申し上げます。今年度もあと一ヶ月を残すのみとなりました。皆様方の御期待に添う事が出来ず、真に申し訳なく思っております。

さて御要望の施設、設備の改善で御座居ますが、此度、校舎建設も準備が進められ、懸案のトイレも一部改善されます。給食調理場につきま

しては、市当局へ改善方願いでございます。その内ご返答もあるものと思われすが、当分は現在のまま使用することになりそうです。その他、

○机・椅子の更新（身体に合わない）
○教室が暗く、雨天の時は黑板の字が見えにくい。
○教室の床板が浮き上がって

○教室の戸棚の不備（給食前食器等整理が出来ない）
○音楽室、プール側校舎の改装。
等多数の御意見、御要望が御座居ます。徐々に改善はされますが、市当局へ要望致します。市当局へ要望致します。市当局へ要望致します。

此の一年間、皆様の御協力により大過なく勤めさせて頂き誠に有難度う御座居ました。今後共宜しく御指導、御鞭達賜りますようお願い致します。

この一年間、皆様の御協力により大過なく勤めさせて頂き誠に有難度う御座居ました。今後共宜しく御指導、御鞭達賜りますようお願い致します。

「各行事

盛會に終了」

体育部長

片山 千代薫

体育部の役員を三年間務めてまいりましたが、皆様のご期待にそうよう十分な配慮をしてきたらどうかと、深く反省しております。それに致しまして、ほとんどの行事が

盛會のうちを終りましたことは、体育部の方々をはじめ、会員各位の積極的な御協力のたまものと感謝いたしております。

ひとつ 反省してみますと、連合PTAの協力を得て念願の島原女子フットボール大会では、準備の期間が短かかったため、順位の決め方などに多くの疑問点を残しました。

町内でもクラブ球技大会及び親子フットベースボール大会では練習場等において多少問題点がありました。他には問題点を見い出せないほど充実してきました。町内対抗バレーボール大会、町内でもクラブ水泳大会はかかなり工夫、改善してまいりました。しかし、同じ行事が学校行事の中にあるため、来年度は重複をなくすため整理統合する時期ではないかと思えます。

最後に、年間行事計画の一つであった親子ハイキングは島原小中学校駅伝大会のため中止せざるを得なくなりました。今度のことをお詫び致します。

今後、教急法だけでなく諸講習会や、室内ゲーム等も考慮し、体育部の行事計画の中にとり入れてはいかかがと考えます。

給食部誕生から

三年目

保健給食部

山口 ヤス子

保健給食部が本校に誕生して三年目を迎えました。本年度は保健面に重点を置き健康、安全に対する意識の高揚と学校給食の内容充実ということから一学期間に一回づつ「保健給食便り」を第二回

目まで発行しましたが、一、二期とも試食をすることはかたがたのようでした。保健面をどうする所から手がけて行ったら良いか手さぐりの状態の時に給食係の先生から「三小では給食の準備の時にエプロンや帽子をつけていない子供がおります。毎月洗濯もされていません」ということをお聞きしまして、早そく「保健給食便り」で父兄の方々に

洗濯をお願いしました所、今では完全に実行されているようです。保健面ではもう一つ水洗便所への改善要望を提出してあげましたので、今後の校舎改築に合わせて善処して下さると思えます。今まで学校の便所では使用に堪え

られず、家庭までがまんして掃られた子供さん多いらっしゃったのではないのでしょうか？夏など蚊の発生で困られた年もあったようです。これからはそのようなこともなくなると思っています。

三学期の活動も「完全給食便り」を発行するだけとなりました。この一年間は、今まで知らなかったことが多すぎて勉強することが多かった。半分はもう肩の荷が降りたような気がします。又ある面では、今まで知らない方と知り合いになれて、とても楽しく過ごさせて頂きました。

最後に給食部としては出すぎることと思いますが、火災後の給食運搬の件御父兄の方々には、大変お世話様になりました。現在では、先生方と子供達の手で運搬されております。子供達にとっては貴重な体験となりました。

今後学校の方で行事などで無理な時もあるかと思えます。その節はよろしくお願ひ致します。来年度の給食部へ一言男性の部員さんを増やされて男性の目からも「保護給食」を捉えて頂き、活動されることを望みます。

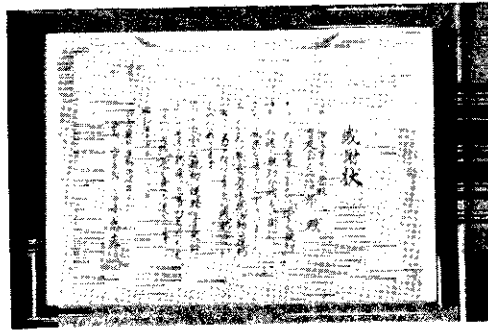


「小さな親切運動」 若水会より感謝状

生活部

永門 重明

子どもたちが、すこやかに成長してくれるよう、すこしでも役立つことをと意気込んで



で出発した生活部でしたが、もう一年間の反省を、という時期になってしまいました。子どもいろいろな非行・問題行動が目だった昨今ですが、この原因はどこにあるのか。家庭と学校が一体となっ

て話し合い、考え合って行くというところで、教養部と共催して町内懇談会と映画会を開催しましたところ、多くの町内で取組んでいただき、本当に有意義であったことは、校長先生はじめ、各町内代議員の方々の御指導と御助力の賜と感謝しております。

今後ともこういう、手をとりあった子どもの健全育成の場がもてることをと、つくづく感じました。

また本年度八月には、生活部先輩各位の努力で始められた、標語の掲示が認められて島原若水会より感謝状を授与される榮譽に浴しました。私たち部員一同もより一層のげみとして、今日まで続けてこられたし、今後ともますます頑張って行かなければと思

います。

あれもしたい、これもしたいが良いかと思ひながら思うこととの半分もできず、今年度も終りになってしまいました。しかし、子どもの生活は一日たりと休みなく続いております。健全育成と四文字で表わす事は簡単でも、ほんとに難しい。しかし、ぜひ精一杯や

生活部諸活動に多くの方々の御協力、御指導を賜わりまして、ほんとうにありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。

三小の味 「が ん ば」

広報部

有馬 隆子

五十五年度の広報部は、新しく本田兼光先生を中心に十名で、スタートしました。

今五十八号の編集を終り此の一年間を振り返ると共に、今後への希望を少し述べてみたいと思ひます。昨年一年間は国際児童年と言うことで、いろいろな行事が各所で行なわれました。それに並行して、私どもも生活部のご協力で標語をいただき、特集記事を掲載することができました。子どもの生活実態調査を実施しましたが、何かお役に立ちましたでしょうか。また新しい試みとして、外部へ足を運び市長さん・教育長さん・警察の交通課長さん方よりも原稿を頂戴いたしました。

師の目と違った見方でおきかせねがいました。この記事をインタビュウそのままの形で紙上に発表できなかったのは心残りでした。五十七号で一般投稿をおねがいましたところ、思いのほか沢山の投稿をいただき嬉しい悲鳴でした。

年度末の「が ん ば」は、いつも卒業して行く六年生のお父さん、お母さん少数の方の思

い出を綴っていたたく形をとっておりましたが、今回は形を変え十数人による座談会を催しその記事を常に頭においているつもりなのですが、素人の悲しさ。スワッ／＼と言う時にまったく駄目でした。来年度は校舎も新しく出来ることですし、シャッターチャン

スも沢山あるものと思われれます。また行事や会合・催しものなど、各所にカメラをフルに使って、「さあ編集」と言う時に役立ててほしいと思ひます。各町内友友会の活動状況なども取材できると理想だと思ひていますが、なかなかむづかしいものです。「自分の町内友友会を紹介したい」「私のクラスのPRをしたい」などと皆様の自発的投稿でもあるようになるのが、本

十九日の卒業式を前に

先日正門の鉄製アーチに藤の木が植えられました。これは、今回の卒業で三小とお別れになられる有志の方々によって記念植樹されたものです。来夏には、美しい花で子どもたちの、登下校を見守ってくれることでしょう。本当にありがとうございます。

卒業をひかえた二月二十三日、六年生のお父さん十数人にお集りいただきまして「六年間の思い出」を中心に、いろいろなお話し合いをいたしました。出席者は、校長先生、校友会長、六年生各クラスの先生及び父母代表の方々と、

さよなら三小

卒業生父母座談会

広報部 (責)

盛んな意見交換が行なわれ、二時間余りに及ぶ盛会さでした。座談会の形をとりました。全体をそのままの形で掲載することは不可能なため、左記のようなあつかいとなりましたことを、ご了承ください。

「今日は、お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。」

三小に学ばせて、又PTA活動、環境等について、気楽に、思い付きのままお話し下されば結構だと思えます。

皆様のお子様も、三小はこれで最後ですね。

まず最初に、三小に学ばせて、どういふご感想をお持ちでしょうか。」

三小に学ばせて

「私は、各地を廻って、子供が一年生の二期に転校して島原が一番長くおります。自然に恵まれていて、友達もすぐ出来てのびのび生活出来ました事は、とても良かったと思えます。子供は、カプセルに入れた物を、五十年後に来たら開けてもらえるだろうかと楽しみにしています。」

「他校に比べて、のびのびして、親も子も塾通いを意識しないですみました。」

「三小の子供は、ゆったりとそしてのびのびしていますね。」

「クラブ活動をさせて、良かったと思われませんか？」

「クラブ活動をする、クヨクヨしない、サッパリした性格になりますね。中学に行ってもクラブに入りたいたっています。」

「私は、双子の子供のクラスが別々でしたので、授業参観の時にA・Bを平等にするのに困りました。今回はAの方を主に、次回はBの方をと。懇談会の途中で抜け出すのは気が引けました。皆様にご迷惑をおかけしないかと。子供の生活面では、健康を特に注意してきました。」

「私は、親子二代に渡って三小に学び、三小しか知りません。のびのびしていますね。裏を返せば、元気があり過ぎる事ですね。」

三小という所は、健康的に育てるには、もってこいの所ですね。」

「中学、高校ではのびのび出来ないだろうけど、小学校ではのびのびさせたいものです。」

「他校から転校して来て、子供はすぐ完全な島原弁になりました。」

「健康になれて、沢山のお友達ができました。」

「生涯で一番残る思い出は、小学校時代の事でしょうね。」

「今の子供の気質について話して下さい。テレビの見方はどうでしょうか。」

「今の子供達はよくマンガ、テレビを観ますね。毎朝新聞

のテレビ欄をみて、自分でみる番組を決めています。主にスポーツ番組と時代劇のようですね。」

「今晩みたテレビの事が、翌日学校で話題になるそうですよ。」

「高学年になるにつれて、見る内容もバラエティに富んでくるようですね。内容批判も出来るようになりますしね。でも反面子供っぽいところもあるんですよ。」

「六年生くらいになると、番組を批判する力がつくのでしようね。低学年の時みていた番組を、だんだんみなくなりません。」

「自分で番組を選択して、みれるようになりますね。」

「テレビ番組で悪いと思うところは、食物を粗末にする番組ですね。」

「今の子供は器用ですね。ラジオを聞きながら、勉強しています。ながら勉強とでもいうのでしょうか。はたして身につけているのでしょうか。」

「家族でいろいろな事について話し合ったりしますか。」

「うちでは、夕食時によく話します。」

「女の子は、よく何んでも話しますが、男の子は話したが

りません。」

「母親として、少しやかましく言い過ぎると思えますが、子供は、それを上手に受けています。」

「そうですね。今の子供は、親のしかるパターンをしいていますよ。六年生くらいになると、親の批判が出来るようになります。」

「では次に、校友会活動についてはいかがでしょう。」

「最近の運動会は寂しくなりましたね。校友会種目を、もっととり入れたらどうでしょう。」

「そうですね。親子で走るのがないから、あつたらと思えます。」

「参観日についてはですが、父親が学校に来る機会が、なかなかありませんから、父親参観日を増やしたらと思うのですが……。」

「三小の校友会は、役員だけでやっているという意見があるのですが。」

「懇談会では特にそう感じますね。もっと父兄の出席が多いといいのですが、高学年になると、出席が悪くなります。どうしたら出席率をよくする事が出来るか、今後の課題でしょうね。」

「小学校はどうしても、町内

が ん ば

(7)

単位の活動が多く、その方が盛んで、クラス単位の活動があまり盛り上がりませんね。」

「その事ですが、学級活動がマンネリ化していて、役員だけが先走りしているという点では、役員の選出法も関係があるのではないかと思うのですが。」

「私もそう思います。」

「一度役員をすると、ほとんど六年間はしないとけないようにするんです。」

「同じ人は三年くらいで、新しい人に交代していくようにしたらどうでしょうか。」

「賛成ですね。半数ずつでも入れ替っていったら、物の見方も新しくなって変わってくるし、意見も片寄らず、いいと思いますよ。」

「役員の選出法については、今後考えていかなければならない問題ですね。次に先生方からみられた今の子供達や、六年生についてのご意見をお聞かせ下さい。」

「低学年ほど、先生の態度や言動がすぐ反映しますね。よい事より、悪い言葉づかいや態度をすぐ真似して、自分でもドキリとすることがあります。気を付けねば、と思いますよ。」

「よく中学生になると悪くなるといいますが、そうではないんです。非行の芽は、低学年から芽ばえ始めます。」

低学年の時、しっかりした生活態度を身につけていけば、そういうことにはなりません。これはお父さん、お母さん方にぜひ、お願いしたいのですが、「あの子は悪い」という親の言葉が、子供には一番影響を与えます。先入観を植えつけてしまうのです。「決めます。自分の子がよければ、という考えがいけません。」

他人はどうでも、という考えが頭にあるのではありませんか？考えて下さい。自分の子供だけでなく、他の子供の事も考えて下さい。そうしなければ、決してよくなりません。」

私達教師は、子供達が中学生になっても、ずっと見守っていきたくと思っています。」

「私は小学校の間は、何事も身をもって『体験する』という事が、大切だと思っています。」

「今の子供には、人を心からほめるという風潮がありませんね。なにかよい事をするとき、すぐ足をひっぱるような事をする。自意識が強いので、自分うか、なにかをして、自分

他の関心をひきつけたいのですね。」

「私は子供達と秘密を持たないように努力しています。」

「今年の六年生は明るくて、素直だと思えますよ。」

「今よく問題になっている小中学生の非行のことについてもっと詳しくお聞きしたいので



ですが。」

「非行の内因はいつでもあります。金、仲間、学校や家庭がおもしろくない、この三つの条件がそろった時、おこるのです。中学生頃になると、びっくりするほど変わる事があります。変わる条件が家庭、学校、どちらかにある

からです。小学生の時『よい子』であった子が、中学生になって変わってしまう事がありません。」

勉強が出来る、出来ない、の問題ではないのです。もっと、どのお父さん、お母さんも身近に考えてほしいのです。他人事ではないのですよ。」

「何か問題が起った時、学校教師、親が一体とならないとよい方向には向かいません。」

「では最後に、小学校で一番思い出に残った事、感想などをお聞かせ下さい。」

「今考えると楽しい事ばかりでしたね。」

「巡回町内懇談会はよかったですね。先生方とじかにいろいろ話が出来たし、雨の中をずぶぬれになって来て下さった校長先生はじめ、諸先生方の努力、ご協力に感謝しています。ぜひ今後も続けてほしいと思います。」

「私もそう思います。より学校と身近になった感じがしますね。」

「私は代議員をやってみて、良かったと思っています。よい勉強になりました。ひっこみ思案だったのですが、積極性が出て来ました。いろいろな方々と友達にもなれましたが、

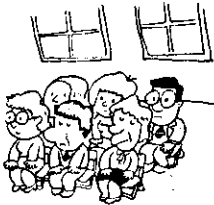
たしね。」

「たしかに人と人とのつながりの輪が広がりましたね。人間が向上したみたいですね。」

「なんととっても、一番印象に残ったのは、卒業の年に、校舎が焼けた事ですね。あつてはならないことなんです。貴重な資料や、フィルムもなくなってしまう本当に残念です。」

「話つきませんが、時間がきたようですので、この辺で終わりたいと思います。」

長時間にわたり、いろいろなお話をありがとうございました。中学校に進学されても、三小の時のことを、楽しい思い出として胸の片隅に留めておいて下さい。そして時折、思い起して下さいようにお願いします。最後に皆様の今後のご多幸と、ご健康をお祈りして終了したいと思います。」



「なさねばならぬことばなせ」

梅林 次生

私が三小を卒業したのが昭和二十三年三月。そして、母校に赴任したのが、四十五年四月。それから十年間、母校で教鞭をとってまいりました。良きにつけ、悪しきにつけ、我が後輩達を教育し、目のあたりにして過してまいりました。

飢餓状態にあった戦後の日本。我々は何よりも物を求めて生きることに懸命の努力を払わなければなりませんでした。その後の歩みは、科学万能・技術革新の時代を生み出したことは、当然のなり行きと言えるかも知れません。

しかし、その反面、失ったものも非常に大きなものがあります。それは、人々の心のゆとりであり、自分以外の人を思いやるやさしい心であります。また、私たち人間にとって最も親密であるべきはずの親子の人間関係まで破壊さ

れようとしている現実であります。

このような状況の中で、この十年間、つれづれ考えておられますことを述べてみたいと思えます。

(一) 子どもに夢を

子どもたちに現実世界のありのままを知らせることもまた、一理ありましようが、まだ、頭のやわらかい子どもたちには、家庭や社会やその他の子どもをとりまく環境の中から、暗いものや悲惨なものから、暗いものや悲惨なものは努めて与えたくない。物事を、ひねくれないで素直に理解できる頭、澄んだ心で見ると、雑音にとらわれない耳、私はこれを育てたいと思っています。

私は、日本人としての心のふるさと・ゆりかごを、童話や童話や昔話にこれを求めたい。へたでもよいから少しの時間をさいて童話を歌ってやれる父母。少しは間違ってもいから風呂やコトツで、あるいは床の中で、童話や昔話を話してくれる父母の姿を期待したいのです。また、子どもたちが庭先や箱庭の草花を世話したり、犬や猫や小鳥の世

話をする、その営みをおし、自然の神秘や美しさ、生命の存在やその尊さを学ばせたのです。

こうしたことから、子どもたちの夢はふくらむ、生命を尊重し、自然を愛し、さては合理性・科学性の芽生えも期待できると思うのです。

(二) 子どもの生活をリズムの中に営まれる。

家庭教育は生活のリズムの中で営まれる。子どもは、遊び勉強——しごと(労働)のリズムをもって生きています。だのに欠けているものはしごとです。人間の本質であるべき労働や作業が欠けています。しごとが子どもの生活のリズムにのってこない。これは致命的です。

家庭のすべての人々がおりなす家庭生活のリズムにのって、子どもの生活はなりたつのです。「しごと」であってお手伝いとはいわない。母親の手を省くために、手伝わすのではない。まして、「オヤツ」「オコソカイ」でつるの

できわめて大切な時期に、母と子、父と子のきずなを強め家庭生活の意義と、懐の大切さをもう一度かみしめてみましょう。

(三) 親の立場からなごめてみましよう。

暮るまでブルドーザー見ていし子抱けば秋の冷えが伝わる大河内恵美子

冬しぐれ降りいる暗き帰り道子の待ち顔の浮かびて愛し桑名幸子

わが家に帰る歩みのいそいそと、疲れを忘れて急ぐのも子の待ち顔があればこそ。この母親の生きがいは、この子

あればかりこそでありましよう。新鮮で一途な好奇心(この好奇心が人類の文化を支え、文明を築いた。)の故に、晩秋の冷気の中に暮しきるまで立ちつくして、ブルドーザーの巨大な偉力に魅せられていたわが子。その芯まで冷えきった体に、母のぬくもりが伝わっていきます。母なればこそおのが体温をわが子にうつし、与える喜びをわが子にうつし、与える喜びを味わうことができます。

父兄のみなさま方、世の中には、首も手も揺れてきまらぬまひの子よ雨に昏れゆく部屋に抱きあぐ木内哲子

まひの体椅子にくくりて授業受くるを当然としてほおめり子は 木内哲子

「うちの子は勉強しない」「うちの子はできない」などとなげく前に、まずわが子の健全正常な成長に感謝しようではありませんか。

最後にもう一つ「相成らぬことは相成らぬこと」これは、明治維新の頃の会津若松の藩学一日新館の館則です。

「なさねばならぬことばなせ、なしてならぬことはなすな」これは、かのイギリスのイートン中学校の校則です。教育の第一歩は、自己抑制ができるかできないかにかかっているのです。教育の鉄則は、何と、人類共通、古今を貫いているではありませんか。

春休みの生活

… 家庭で 何をどうする…

教 諭 小 峰 忠 与 士

三学期の非行は、万引き、金銭の持ち出し、インベーダーゲーム等二・三の事例はありましたが、学校と家庭・地域との連絡を密にして取り戻したためか、非行が減少したように思われる。

非行にはしまった子どもと、話をしてみると、その要因と思われるものは色々あるが、その中でも一番大きな影響を与えているのは、家庭のあり方、母親の生活態度であるように思われる。

そこで、非行のタネが作られるという、もっとも危険な春休みもやってきますので、「家庭ではどうすればよいのか」考えて見たい。

夏休み前の発行「ガンバ」には、非行のチェックポイントを書いてみました。非行の著者 能重真作氏は、「家庭で何をどうする」ということで、次の五つのことを指摘しています。

- (1) 心の通った安定した家族関係がなにより大切。家がおもしろくないから、といって非行に走るケースがめだちます。夫婦ゲンカが絶えず、家族がめいめい勝手なことをしているようでは問題です。
- (2) 物や金で子どもの心をつなぎとめようとするのではなく、家族が協力して仕事をするなど、親子の心の通い合いを大切に。
- (3) 家庭でのけじめある生活。子どものわがままや怠惰な気持ち、非行の根にあり、生活のリズムが狂っている場合がほとんど。時間のけじめ、品物や金銭の管理、言葉づかい、あいさつや人との応対の仕方など、親として教えるべきことはきちんと教えるよう日ごろから心がけることが大切です。
- (4) 子どもの変化を見抜ける目。

- 子どもが非行化するまでにはいろいろな徴候があらわれるものです。早期発見、早期治療は非行防止の原則。
- 一つは服装の変化に注意すること。二つ目は、行動の変化、三つ目は心の変化です。前者二つは比較的表に出るので見つけやすいが、問題は心の変化、しかし、これも結局行動や服装になってあらわれるわけですからよく見ておく必要があります。
- 肝心なのは、自分の子どもだけを見ていては、自分の子も見えないということです。
- (4) 非行の事実を冷静に受けとめる努力を。
- 非行の事実を知らされたときの親のみせる態度はおよそ三つです。
- ① うろたえて、ただおろおろする。
- ② 感情的にわが子をしかりとばす。
- ③ わが子をかばって、教師など事実を知らせた側にくつつかかる。
- いずれも冷静さを欠いた結果です。大切なのは子どもの行動だけに目を奪われるのではなく、なぜこうなったかを子どもといっしょに冷静に考えて見ることです。
- (5) 間違った行為には、どんな妥協もしない。
- 家庭のあり方は、子どもにさまざまな影響を与えます。「四季の歌」にあるように、岩をくだく波のような父親、雪をとかす大地のような母親でありたいものです。

会員のこゑ

町で感じる

今頃の町は、前とはまた違ったように感じます。近頃の町でよく見かけるのは子供達です。お金も持たずに、子供たちだけで、遊びに来るものもおれば、習いごとをするため忙がしげに歩いて行く子供達もいる。毎日町で魚を売っているからです。他には、これと言った私達、他の人もそうだと思いますけど、目を見張るものは、何もないようです。なぜか淋しい感じすらします。人に親切にとか、みんな仲よくなど、そのようなことは、町ではなおさら見られないように感じます。このような事ではなく、良い事を書きたかったのですが、近頃の町で見かける事と言ったら、楽しいことは、あまりないみたいです。(三小P)

交通戦争のなかで

私は外港の交通のはげしい所に住んでおりますが、子供達が自転車であつて通るのがあぶなくていつもはらはらして見えています。車の横をすつと横切って通ったり、赤の信号でも平気で通って行きます子供に交通のはげしい今の現状を言ってきたら、必要が有ると思いません。(三年母)

祭日に国旗を掲げてない家が目立ちます。どの家も旗を掲げましょう。(三小P)

「こんにちは」

私は毎日車で配達の仕事をしています。車から見ているのを、よく見かけます。そんな状態を見た時は、気持ちがいいですね。それにどこで会っても「こんにちは」と声をかけると元氣よく返事を返して来る子ども//三小には、こんな子供もこの中の一人です。私の子供もこの中の一人として、長い目で見てやりたいと思えます。(三小P)



木造校舎

改築について

促進委員

高 原 寿 一

五十四年度第一回の授業参観が春、大雨の中で一・二年生を対象に行なわれましたが二年生の学級では授業どころではなく、先生はバケツの整理で大変のようでした。これでは授業も満足に出来ないのではないかと、事で、屋根に「しっくい」をうってもらいましたが、十分にとめることが出来ません。この校舎を早く改築していただきたいとの要望が育友会の中から強く出されました。

同窓会・町内連絡協議会・育友会で促進委員会をつくり、市・教育委員会に陳情を行い市長ともお会いする事が出来ました。又議会でも地元選出議員さんから一般質問の形で改築について質疑が出されました。市長は長期展望に立って計画したい。時期については明確に出来ないとの答えで話した。その後市役所内で色々とお話しがなされたの聞いておりますが、こんどの火災で立派な校舎が体育館前にたてられる事と思います。内容等は教育委員会が中心になって検討はされております。

現在高一の娘が三小へ入学いたしましたのが、昭和四十五年四月でした。今、息子が三小を巣立って行きます。あれから十年。この学校にお世話になりました。私は三小の出身でないだけに全く馴染みのない学校でした。校風も何もわからない学校でしたのにも

部 報 広 報 部

十年の才月は、私をあたかも三小の卒業であるかのように親しみを感じさせるようになりまして。娘が二年生になりました。娘が二年生になりまして春何の間違いからか代議員となりまして、とうとう今日に至りました。でも今振り返って此の十年間を考えてみますと、三小に子どもを学ばせ、また育友会活動に参加できましたことを心からよろこび感謝いたしております。

過ぎ去った年月は思い返しますと、長いようで短かかったのか、短かいようで長かったのか表現のしようがありません。代議員としての時間が長かった私にとりて思い出は

個人的なものは勿論、育友会活動面でのものも大きく比重をしております。

最初三年間学級部に席をおきました。当時は運動会で専門部の競走がありこのカッコーイスタイルで出場したのも良い思い出の一ツです。活動面で頭に残っていますのは、学級育友会が全学年終ると、毎月(とんだ月もありました)「学級部便り」を発行して会員への関心の高揚に一助をなしたことが一年間あったことです。四十九年広報部に席を移し諸先輩の仲間に入れて頂き第一歩をふみ出しました。高校時代文芸部に首をつつ込んではいいましたが、内容・目的ともに全く異なった育友会報作りです。「見よう・見まね」言葉通り全て白紙から始めました。一年・二年と日が重なるにつれ歴史の古いこの立派な育友会報をどのように成長させ守って行くべきかと頭を痛めなければならぬままになりました。学校側・育友会ともにいろんなことがありました。時の流れに従って三小も例外でなく運動会日曜開催問題で悩んだ年もありました。それを起点として広報部でも運動会問題について会

員の生の声の収集に取り組みました。紆余曲折を経て五十二年には「運動会特別号」を発行するに至りました。体育館の落成・三小百周年記念・育友会三十周年記念・県PTA研究島原大会への協力・各地での研修会への参加・各種行事教えきれないほど思い出はあります。今改めて「がんば」を紐解いてみますと、その時々の記事があの日あの時の思いを掘りおこしてくれました。企画・原稿依頼・編集と部員の心が一ツとなり協力し合って育てて来ました。辞書を聞くことを思い出し、文章の勉強をしたことは勿論ですが、何よりも有難かったことは沢山のお友達が出来たことです。それも心を開いて話し合える友達を何人となく。それもそのはずです。広報紙作りをするだけでなく、先生を中心に集った部員が、本題の他に子どもに関するいろんなことについて(勉強・生活・スポーツ・塾・遊び・心理)夜遅くまで話し合ったことがたびたびありました。そのようなのが友達作りに繋がったのでしよう。今此の部を去るに当り、私の力がいかに小さなものもあり、お役に立て

なかったことかを申しわけなく思いながら、今後ますます立派な「がんば」が育って行きますよう期待しております。長い間お世話様になりました。本当に有難度うございました。

編 集 後 記



「螢の光」の時節がやって来ました。二頁増で本年度最終号の編集を終りました。

前回「会員の声」の原稿未掲載の分を今回全部掲載いたしました。新年度からは、年度初めに一般原稿を募集して年間を通じて分載して行くようにすると如何かと思っております。卒業・進級とお子さまも年度替り、今が一番ホッとしていらっしゃる頃です。どうぞ小峰先生のご注意などご参考に、たのしい春休みを過して新学期をお迎えください。「がんば」への読後感想ご意見などぜひおきかせ下さい。今後の活動のエキスポとしていきたいと思っております。